

都市再生整備計画 事後評価シート

稻生沢・蓮台寺温泉お散歩地区

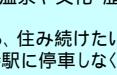
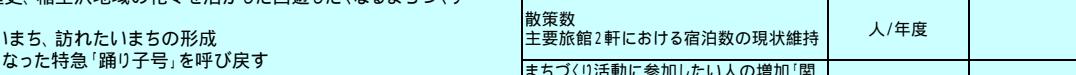
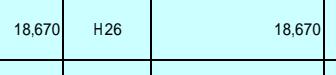
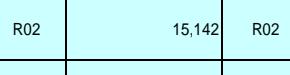
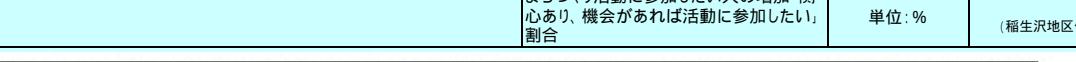
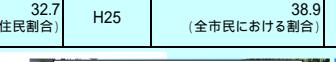
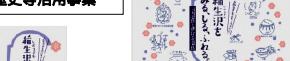
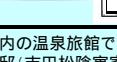
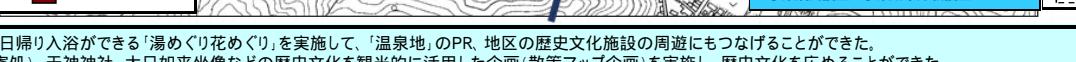
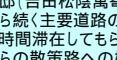
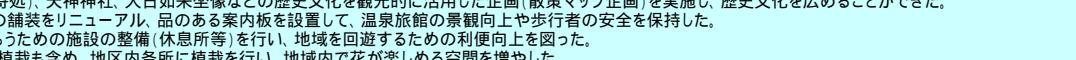
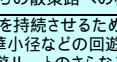
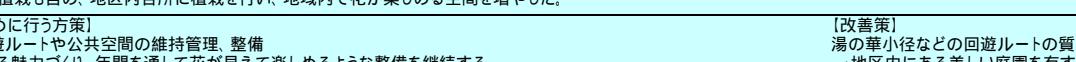
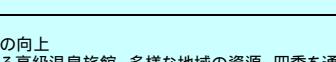
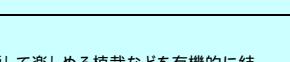
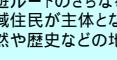
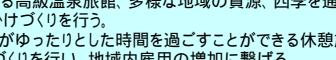
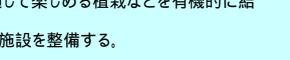
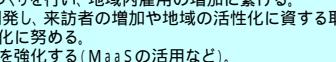
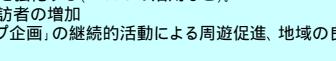
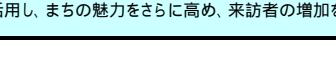
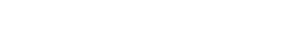
令和3年3月
静岡県 下田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県	市町村名	下田市	地区名	稻生沢・蓮台寺温泉お散歩地区			面積	40ha		
交付期間	平成28年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	84百万円	国費率	0.4				
		事業名									
		基幹事業 【道路】市道立野お吉ヶ淵線 【道路】市道日陰2号線 【道路】市道安城1号線 【公園】(仮)天神公園 【地域生活基盤施設】案内板等整備事業 【地域生活基盤施設】湯の華広場 【高質空間形成施設】県道蓮台寺立野線 【高質空間形成施設】湯の華小径 【高質空間形成施設】湯めぐり広場 【高質空間形成施設】ストリートミュージアム									
		提案事業 【地域創造支援事業】四季の花植栽事業 【地域創造支援事業】温泉旅館活用事業 【事業活用調査】地域資源活用調査(温泉旅館等との連携等) 【事業活用調査】事業効果分析調査 【まちづくり活動推進事業】ワークショップの開催、まちづくりPR									
1)事業の実施状況											
		事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		当初計画から削除した事業 基幹事業 ①【道路】市道安城1号線 ②【地域生活基盤施設】湯の華広場 ③【高質空間形成施設】県道蓮台寺立野線 ④【高質空間形成施設】ストリートミュージアム		①工法の検討に時間を要するため、事業を削除。 ②旅館蓮台寺荘の隣地であったが、旅館が閉館となったことによる事業の削除。 ③整備内容について理解が得られず、計画期間内の整備が難しいことから事業を削除。 ④1箇所ではなく、地区内に分散して地区の歴史等を見せることとしたため、事業の削除。				影響なし			
		提案事業 なし						—			
		新たに追加した事業 基幹事業 ①【公園】(仮)道草公園 ②【公園】(仮)枝垂れ桜の里公園		①地元ワークショップで回遊するルートを検討した結果、回遊において重要な場所となったことによる事業の追加。 ②枝垂れ桜の大規模植栽箇所の一角を市で所有でき、公園として整備することになったため、事業を追加。				影響なし			
		提案事業 【地域創造支援事業】社寺歴史等活用事業		地区内に分散して地区の歴史等について見せる方が、散策を促す方法として効果があるとして事業を追加。				影響なし			
		交付期間の変更 当初 平成28年度～令和2年度 変更 変更なし		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況											
		指標		従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期	
		指標1 散策数 吉田松陰寄宿の年間来訪者の増加		基準年度 (人/年度)	目標年度 モニタリング	評価値	△	あり なし	— ●	メディアによる波及効果により、吉田松陰寄宿の来訪者は、平成27年度にピークとなった。事業を開始した平成28年度から平成30年度は目標値3,000人を超えていたものの、その後、コロナ禍において、令和2年3月から吉田松陰寄宿もコロナ対策で閉鎖したため利用者数は減少、来訪者数の達成はできなかった。	
		指標2 散策数 主要旅館2軒における宿泊数の現状維持		基準年度 (人/年度)	目標年度 モニタリング	評価値	△	あり なし	— ●	当該主要旅館宿泊者数は、平成27年度約19,200人あまりで、目標値の18,670人を越えていた。しかし、平成28年度以降は、市の観光レクリエーション客数の減少もあり宿泊客数は減少し、令和2年度も市内イベントが相次いで中止となり、引き続き厳しい状況である。	
		指標3 まちづくり活動に参加したい人の増加「関心あり、機会があれば活動に参加したい」割合		基準年度 % (稻生沢地区住民割合)	目標年度 モニタリング	評価値	△	あり なし	— ●	稻生沢地区的まちづくりの会議は継続的に行われている。その活動である2つのプロジェクト「四季の花咲く稻生沢」では、駅や小中学校などに植樹を行い、「地域資源の掘り起こしとマップづくり」では、地区全戸へマップの配布を行うなど、具体的な活動により、地域住民の関心が高まっている。	

3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定期
	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	生活環境の満足度	%	20.4	H25			20.9			住民の生活に密接につながる道路や公園といった公共施設の整備改善等を行ったことにより、生活環境が向上した。	—
その他の数値指標2	稲生沢地域のまちづくり協議会への参加	%	0.0	H30				23.6			本計画で行ったワークショップをきっかけに、平成30年度、まちづくり協議会が発足した。地区内の温泉旅館で日帰り入浴ができる「湯めぐり花めぐり」や地域資源を記したマップの作成及び全世帯配布などをを行うことで、稲生沢地域のまちづくり活動が定着した。	—
その他の数値指標3	温泉旅館活用事業「湯めぐり花めぐり」イベント参加者の地区内周遊	%	0.0	H30				70.0			地区内の温泉旅館で日帰り入浴ができる「湯めぐり花めぐり」参加者に対して、旅館だけではなく地区的周遊も促すために、稲生沢地域まちづくり協議会で作成したマップを配布した。地区のことを知ってもらったことで、地区内散策に繋がった。	—
4) 定性的な効果発現状況	<p>・「湯めぐり花めぐり」参加者の約9割から「概ね満足した」という結果を得られたことや、イベント参加者の約9割から次回イベントが開催された際に参加するという声が得られたことから、こうしたイベントを継続的に地域内で行うことで、地域の活性化が期待できる。</p> <p>・「湯めぐり花めぐり」は、地域住民による利用割合が多く、観光施設と地元との新たな交流が生まれるきっかけとなった。</p>											
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	—			都市再生整備計画に記載し、実施できた				—			
	住民参加プロセス	<p>稲生沢地域まちづくり実践会議 【実施頻度】年3回 【実施時期】平成27年度～平成29年度 【実施結果】「四季の花咲く稻生沢」プロジェクト、「地域資源の掘り起こしとマップづくり」プロジェクトを実践</p>			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				区長会内に発足した「稲生沢地域まちづくり協議会」にて活動を継続			
	持続的なまちづくり体制の構築	<p>・温泉旅館活用事業「湯めぐり花めぐり」の開催 ・枝垂れ桜の里祭りの来訪者、稲生沢地域への来訪者に稲生沢地域の温泉を周知し、旅館の宿泊者数の増加や稲生沢地域の活性化、歴史文化の保全継承、地区のコミュニティの維持向上に繋げる。</p>			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				蓮台寺枝垂れ桜の里まつりの時期に合わせた「湯めぐり花めぐり」の定期開催			

様式2-2 地区の概要

稲生沢・蓮台寺温泉お散歩地区(静岡県下田市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 地域住民が誇る蓮台寺の温泉や文化・歴史、稲生沢地域の花々を活かした回遊したくなるまちづくり		散策数 吉田松陰寄處の年間来訪者の増加	人/年度	2,839	H25	3,000	R02	2,699	R02
小目標1: 地域と共につくる、住み続けたいまち、訪ねたいまちの形成 小目標2: 伊豆急行蓮台寺駅に停車しなくなった特急「踊り子号」を呼び戻す		散策数 主要旅館2軒における宿泊数の現状維持	人/年度	18,670	H26	18,670	R02	15,142	R02
		まちづくり活動に参加したい人の増加「関心あり、機会があれば活動に参加したい」割合	単位: %	32.7	(H25 (稻生沢地区住民割合))	38.9	(R02 (全市民における割合))	24.8	R02
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									
   									

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●	—	—	—	—
B. 目標を定量化する指標	●	—	—	—	—
C. 目標値	●	指標2 散策数 主要旅館3軒における宿泊数の現状維持 24,878人/年度	指標2 散策数 主要旅館2軒における宿泊数の現状維持 18,670人/年度	—	主要旅館3軒のうち、1軒は2016年3月に廃業したため、宿泊者数、目標値を減じ、主要旅館2軒の宿泊者数18,670人/年度の維持を目標値とする。
D. その他(地方都市リノベーション事業)	●	—	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定 量化する指標、数値目標等 への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道立野お吉ヶ淵線	(百万円) 62	修景設計・舗装工 W=6.5m、L=380m	(百万円) 34	修景設計・舗装工 W=6.5m、L=380m	道路修景設計における府内検討や外部協議により、当初見込んっていたよりも、修景に費用を要さなかったことによる事業費の減額。	影響なし	●	
道路	市道日陰2号線	0.8	防護工 W=3.8m、L=80m	1	防護工 W=3.8m、L=80m	防護柵の製品や消費税が変更したことによる事業費の増額。	影響なし	●	
道路	市道安城1号線	0.2	排水構造物工 W=3.5m、7L=20m	—	—	工法の検討に時間を要するため、事業を削除。	影響なし	—	—
公園	(仮)天神公園	15	広場整備 750m ²	7	あずまや・舗装 200m ²	公園設計により、整備する施設を変更したことによる事業費の減額。	影響なし	●	
公園	(仮)道草公園	—	—	8	備蓄倉庫・植栽 350m ²	地元ワークショップで回遊するルートを検討した結果、回遊において重要な場所となったことによる事業の追加。	影響なし	●	
公園	(仮)枝垂れ桃の里公園	—	—	11	散策路 750m ²	枝垂れ桃の大規模植栽箇所の一角を市で所有でき、公園として整備することになったため、事業を追加。	影響なし	●	
地域生活基盤施設(情報版)	案内板等整備事業	10	案内標識2基	6	案内標識2基	コスト縮減による事業費減。	影響なし	●	
地域生活基盤施設(広場)	湯の華広場	13	90m ² 民地購入、旅館敷地借用	—	—	旅館蓮台寺荘の隣地であったが、旅館が閉館となったことによる事業の削除。	影響なし	—	—
高質空間形成施設(モニュメント)	県道蓮台寺立野線	70	カラー舗装、石畳 S=7,700m ²	—	—	整備内容について理解が得られず、計画期間内の整備が難しいことから事業を削除。	影響なし	—	—
高質空間形成施設(緑化施設等)	湯の華小径	7	照明施設、植生	2	照明施設 10基	湯の華小径全体の景観検討が必要となり、計画期間内での実施が難しいため、植生を減額。	影響なし	●	
高質空間形成施設(緑化施設等)	湯めぐり広場	2	水景施設	2	水景施設	なし	影響なし	●	
高質空間形成施設(緑化施設等)	ストリートミュージアム	10	モニュメント1基	—	—	1箇所ではなく、地区内に分散して地区の歴史等を見せることとしたため、事業の削除。	影響なし	—	—

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記の

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	四季の花植栽事業	(百万円) 10	・公有地等への枝垂れ桃などの新規植栽(樹木もしくは多年草植物)	(百万円) 2	・公有地等への枝垂れ桃などの新規植栽(樹木もしくは多年草植物)	地区内数か所に植栽をしたが、見込んでいたよりも費用を要さなかつたため事業費の減額。	影響なし	●	
	温泉旅館活用事業	(百万円) 20	・地区内温泉旅館を活用して湯めぐり手形を行うための整備 ・湯めぐり客を迎えるうえで必要な温泉旅館内設備の設置と、湯めぐり手形の作成	(百万円) 2	・湯めぐり手形案内板等作成、湯めぐり手形実施報告書作成	通常での実施を想定していたが、期間限定で行うことになったため、コスト縮減による事業費減。	影響なし	●	
	社寺歴史等活用事業	—	—	—	・地域内の歴史、文豪等の活動、神社、仏閣等を整理調査し、地区内の施設をスランプラー的な感覚で目的をもって周遊したくなるための検討調査を行う。調査に基づいて、企画実施を行う。	地区内に分散して地区的歴史等について見せる方が、散策を促す方法として効果があるとして事業を追加。	影響なし	●	
事業活用調査	地域資源活用調査 (温泉旅館等との連携等)	2	・温泉旅館を実験を通して活用の形を探る、歴史文化財を活用するための調査研究 ・地区内の温泉旅館にヒアリングをして湯めぐり手形導入のための課題と改善策を検討する。改善策を踏まえたうえで、2年目に期間限定で湯めぐり手形を社会実験する。3年目に地域創造支援事業で湯めぐり手形のためのハード整備を行う。	1	・温泉旅館を実験を通して活用の形を探る、歴史文化財を活用するための調査研究 ・地区内の温泉旅館にヒアリングをして湯めぐり手形導入のための課題と改善策を検討する。改善策を踏まえたうえで、2年目に期間限定で湯めぐり手形を実施する。	当初企画調整に2年間程の時間を要すると見込んでいたが、1年で完了したため、期間を短縮したことによる事業費の減額。	影響なし	●	
	事業効果分析調査	5	・計画期間最終年度において指標を評価する調査	3	・計画期間最終年度において指標を評価する調査	計画全体事業費減による事業費の減額。	影響なし		●
まちづくり活動推進事業	ワークショップの開催、まちづくりPR	2	・ワークショップの開催、まちづくりPR	2	・ワークショップの開催、まちづくりPR	なし	—	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記。

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
観光地域づくり整備事業(県補助金)	蓮台寺温泉地区		12.6	13.2	平成30年4月20日～ 令和3年3月31日	平成30年4月20日～ 令和2年7月1日	手湯の設置、案内板や公衆 トイレの新設などにより、温 泉地としての創出、利便性 の向上を図った。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)	数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無 あり なし							
				基準年度	基準年度		目標年度	目標年度	目標年度	目標年度	目標年度								
指標1	散策数 吉田松陰寓寄処の年間来訪者の増加 人/年度	■データの計測方法:平成25年度から令和元年度迄の来訪者数から令和2年度の値を推計する。 ■評価値の求め方:令和元年度末から全国でコロナウイルスによる規制が行われ、本市も影響を受けていることから、令和2年度は本来の計測値が得られないと考えられる。そのため、計測時点では、平成25年度から令和元年度迄の来訪者数の傾向より令和2年度の来訪者数を想定し、この値を評価基準日における評価値とする。	-	-	2,839	H25	3,000	R02	モニタリング			モニタリング	●						
									事後評価	確定	●	2,699	事後評価	△					
指標2	散策数 主要旅館2軒における宿泊数の現状維持 人/年度	■データの計測方法:平成25年度から令和元年度迄の宿泊者数から令和2年度の値を推計する。 ■評価値の求め方:令和元年度末から全国でコロナウイルスによる規制が行われ、本市も影響を受けていることから、令和2年度は本来の計測値が得られないと考えられる。そのため、計測時点では、平成26年度から令和元年度迄の宿泊者数の傾向より令和2年度の宿泊者数を想定し、この値を評価基準日における評価値とする。	-	-	18,670	H26	18,670	R02	モニタリング			モニタリング	●						
									事後評価	確定	●	15,142	事後評価	△					
指標3	まちづくり活動に参加したい人の増加 「関心あり、機会があれば活動に参加したい」割合 %	■データの計測方法:平成25年度に行ったアンケート調査で従前値として使用した項目について、改めてアンケート調査を行う。 ■評価値の求め方:平成25年度に行ったアンケート調査の「まちづくり活動についてどのように考えていますか?」という項目を令和2年度に行うアンケートにも盛り込み、まちづくり活動の参加意欲について、どのような変化があったかを把握し、得られた値を評価基準日における評価値とする。	-	-	32.7 (稲生沢地区 住民割合)	H25	38.9 (全市民における 割合)	R02	モニタリング			モニタリング	●						
									事後評価	確定	●	24.8	事後評価	△					
指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)					その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)													
指標1	平成27年度をピークに年々来訪者数が少なくなっているものの、平成30年度迄は3,000人/年度を超える来訪者であったが、コロナウイルスの影響もあり、来訪者数が令和元年度では前年比の約12%減という結果であった。 稲生沢地域は枝垂れ桜が咲く時期に多くの来訪者が見込まれ、また地域主催の「枝垂れ桜の里祭り」や「湯めぐり花めぐり企画」などに合わせて地域を周遊する来訪者も多く、地域の歴史的資源でもある吉田松陰寓寄処への来訪者も期待したが、今回それは見込めず値が小さくなつたため、「△」とした。					令和2年1月からコロナウイルスの影響が大きくなり、同年3月には外出自粛となり、観光客数が減少した。													
指標2	平成26年度をピークに宿泊者数が年々減少しており、稲生沢地域への観光目的とした新規整備が少なく、既存施設の改修等が多かつたため、「宿泊者数の維持には至らなかった」。また、実施した企画では、一定数の利用はあったが、日帰り入浴のため指標には含まれず、波及効果(はピアリング)では認められたものの、宿泊者数の指標達成までは至らなかったため「△」とした。					令和2年1月からコロナウイルスの影響が大きくなり、同年3月には外出自粛となり、宿泊者数が減少した。													
指標3	70代以上の参加意向は低く、前回と比較して今回は70代以上の回答者の割合が高いことから前回値を下回る結果となったと考えられる。一方、「参加したいと思わない」と回答する割合は70代以上になると下がるため、「関心はあるが活動できない」といった状況が推測される。 しかし、地域住民の「湯めぐり花めぐり企画」への参加者も多く、またまちづくり活動への関心は高いことから、今後もこうした活動を継続することで、次世代への継承が期待されることから「△」とした。					アンケート回答者数を増やすことで、地域別、年代別等の傾向が把握できる。													

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことという。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
指標	単位		基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標1	生活環境の満足度	%	■データの計測手法:平成25年度に行ったアンケート調査で従前値として使用した項目について、改めてアンケート調査を行う。 ■評価値の求め方:平成25年度に行ったアンケート調査の「生活環境の満足度」という項目を令和2年度に行うアンケートにも盛り込み、生活環境の満足度のうち、今回実施した事業に関連する項目について、どのような変化があったかを把握し、得られた値を評価基準日における評価値とする。	—	20.4	H25	モニタリング	事後評価	確定	●	20.9	・地区の整備を行うことにより、生活環境等が改善されることから、小目標1の指標として相応しいものと考えられる。
その他の数値指標2	稻生沢地域のまちづくり協議会への参加	%	■データの計測手法:令和2年度改めてアンケート調査を行う。 ■評価値の求め方:令和2年度アンケート調査に、「稻生沢地域まちづくり協議会が発足し、枝垂れ桜の管理や、湯めぐりの実施を行っていますがご存知ですか」という項目を盛り込み、「知っている」、「関心があり、参加したい」得られた合計値を評価基準日における評価値とする。	—	0.0	H30	モニタリング	事後評価	確定	●	23.6	・「まちづくり実践会議」の活動等を通して、まちづくり活動が啓発されており、「稻生沢地域まちづくり協議会」が発足した。今後も、まちづくり活動が継続的に進められることから、小目標1の指標として相応しいものと考えられる。
その他の数値指標3	温泉旅館活用事業「湯めぐり花めぐり」イベント参加者の地区内周遊	%	■データの計測手法:事業内で「湯めぐり花めぐり」実施期間にアンケート調査を行った。 ■評価値の求め方:「湯めぐり花めぐり」に参加した人にアンケートを行い、「本イベントで温泉入浴する以外に温泉旅館周辺で何かしますか。またはしましたか。」に対し「温泉旅館周辺で何かした」と回答した割合を評価値とする。	—	0.0	H30	モニタリング	事後評価	確定	●	70.0	・旅館を訪れたことを通じて、地区内の散策が行われたことから、大目標の指標として相応しいものと考えられる。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・「湯めぐり花めぐり」イベント参加者の約9割から「概ね満足した」という結果を得られたことや、イベント参加者の約9割から次回イベントが開催された際に参加するという声が得られたことから、こうしたイベントを継続的に地域内で行うことで、地域の活性化が期待できる。

・「湯めぐり花めぐり」は、地域住民による利用割合が高く、観光施設と地元との新たな交流が生まれるきっかけとなった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
稲生沢地域まちづくり実践会議	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】年3回 【実施時期】平成27年度～平成29年度 【実施結果】「四季の花咲く稻生沢」プロジェクト、「地域資源の掘り起こしとマップづくり」プロジェクトを実践	区長会内に発足した「稲生沢地域まちづくり協議会」にて活動を継続
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
「湯めぐり花めぐり」の開催	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	・枝垂れ桃の里祭りの来訪者、稻生沢地域への来訪者に稻生沢地域の温泉を周知し、旅館の宿泊者数の増加や稻生沢地域の活性化、歴史文化の保全継承、地区のコミュニティの維持向上に繋げる。	稻生沢地域まちづくり協議会 ・稻生沢地域まちづくり実践会議より協議会が発足	蓮台寺枝垂れ桃の里まつりの時期に合わせた「湯めぐり花めぐり」の定期開催
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
稻生沢・蓮台寺温泉お散歩地区 都市再生整備計画事後評価検討会	下田市産業振興課 観光交流課 統合政策課 生涯学習課 建設課	令和3年2月4日	下田市建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3			
指標名		生活環境の満足度		稻生沢地域のまちづくり活動への参加		温泉旅館活用事業「湯めぐり花めぐり」イベント参加者の地区内周遊			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】(市)立野お吉ヶ淵線 【道路】(市)日陰2号線 【公園】(仮)天神公園 【公園】道草公園 【公園】枝垂れ桜の里公園 【地域生活基盤施設】案内板等整備事業 【高質空間形成施設】湯の華小径、湯めぐり広場	○ ○ ○ ○ ○ △ △	住民の生活に密接につながる道路や公園といった公共施設の整備改善等を行ったことにより、生活環境が向上した。	— — ○ ○ ○ — ○	本計画で行ったワークショップをきっかけに、平成30年度、まちづくり協議会が発足した。地区内の温泉旅館で日帰り入浴ができる「湯めぐり花めぐり」や地域資源を記したマップの作成及び全世帯配布などをすることで、稻生沢地域のまちづくり活動が定着した。	△ — ○ ○ ○ — △	地区内の温泉旅館で日帰り入浴ができる「湯めぐり花めぐり」参加者に対して、旅館だけではなく地区周遊も促すために、稻生沢地域まちづくり協議会で作成したマップを配布した。地区のことを知ってもらったことで、地区内散策に繋がった。		
提案事業	【地域創造支援事業】四季の花植栽事業 【地域創造支援事業】温泉旅館活用事業 【地域創造支援事業】社寺歴史等活用事業 【事業活用調査】地域資源活用調査(温泉旅館等との連携等) 【事業活用調査】事業効果分析調査 【まちづくり活動推進事業】ワークショップの開催、まちづくりPR	○ △ △ △ — ○							
関連事業									

※指標改善への貢献度

- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	公共施設の定期点検や維持補修を図る。	地域住民が主体となったまちづくり活動を継続して、行政が活動をサポートする。	「湯めぐり花めぐり」を継続するとともに、参加者への地区案内をあわせて行う。
-------	--------------------	---------------------------------------	---------------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3					
指標名		散策数 吉田松陰寓寄処の年間来訪者の増加		散策数 主要旅館2軒における宿泊数の現状維持		まちづくり活動に参加したい人の増加 「関心あり、機会があれば活動に参加したい」割合					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	【道路】(市)立野お吉ヶ淵線	—	メディアによる波及効果により、吉田松陰寓寄処の来訪者は、平成27年度にピークとなった。事業を開始した平成28年度から平成30年度は目標値3,000人を超えていたものの、その後、コロナ禍において、R2.3から吉田松陰寓寄処もコロナ対策で閉館したため利用者数は減少、来訪者数の達成はできなかった。	III	—	当該主要旅館宿泊者数は平成27年度は約19,200人あまりで、目標値の18,670人を越えていた。しかし平成28年度以降は、市内の観光レクリエーション客数の減少もあり宿泊客数は減少し、令和2年度も市内イベントが相次いで中止となり、引き続き厳しい状況である。	III	△	稲生沢地区のまちづくりの会議は継続的に行われてきており、その活動についても2つのプロジェクト「四季の花咲く稲生沢」では駅や小中学校などへの植樹、「地域資源の掘り起こしとマップづくり」では全戸へのマップの配布など具体的な活動により、地域住民の関心が高まっている。	IV	
	【道路】(市)日陰2号線	—			—			△			
	【公園】(仮)天神公園	—			—			△			
	【公園】(仮)道草公園	—			—			△			
	【公園】(仮)移動花桃の里公園	△			—			△			
	【地域生活基盤施設】案内板等整備事業	△			—			△			
	【高質空間形成施設】湯の華小径、湯めぐり広場	△			—			△			
					—			△			
					—			△			
					—			△			
提案事業	【地域創造支援事業】四季の花植栽事業	△			—			△			
	【地域創造支援事業】温泉旅館活用事業	△			—			△			
	【地域創造支援事業】江寺歴史等活用事業	△			—			△			
	【事業活用調査】地域資源活用調査(温泉旅館等との連携等)	△			—			△			
	【事業活用調査】事業効果分析調査	—			—			△			
	【まちづくり活動推進事業】ワークショップの開催、まちづくりPR	△			—			△			
関連事業											

※目標未達成への影響度

××: 事業が効果を発揮せず。

指標の目標未達成の直接的な原因となった。

×: 事業が効果を発揮せず。

指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△: 数値目標が達成できなかつた中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。

—: 事業と指標の間に、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。

分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。

分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	天神公園や湯の華小径などの整備が、来訪者の快適性、景観性の向上、地域住民の暮らしやすさなどに寄与した。地域でのイベント実施時には来訪者が多く、散策数も増加に結びついていることから、地域資源を生かしたソフト施策の実施がより効果を生むものと考える。	天神公園や湯の華小径などの整備が、来訪者の快適性、景観性の向上、地域住民の暮らしやすさなどに寄与した。地域でのイベント実施時には来訪者が多く、散策数も増加に結びついていることから、地域資源を生かしたソフト施策の実施がより効果を生むものと考える。	地域資源や整備した施設を活かして、地域住民が主体となり、まちづくり活動を進め、行政が活動をサポートする。
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
稻生沢・蓮台寺温泉お散歩地区 都市再生整備計画事後評価検討会	下田市産業振興課 生涯学習課 観光交流課 建設課 統合政策課	令和3年2月4日	下田市建設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
美しい庭園を有する高級温泉旅館が地区内に点在する優位性を強調したまちづくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地区内の温泉旅館で日帰り入浴できる「湯めぐり花めぐり」を実施して、地区内外の人に「温泉地」をPRできた。 「散策マップ企画」で、周遊のお供に手ぬぐいを作成し、温泉地を印象づけた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、観光客の減少により年間来訪者数が減少しているが、今後も地域の歴史や文化の活用を図り、まちのさらなる魅力をつくりを行い、誘客数の増加を図る必要がある。 ソフト事業を積極的に取り入れ、地域住民の活動とともに、まちづくりを進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 湯の華小径、天神神社前の広場公園の整備や公共空間で温泉情緒を感じる空間づくりを行い、回遊したくなる仕掛けはできただけで、今後は来訪者を増やす誘導策を地域住民とともに進める。またこれらの公共空間は地域住民が日常生活で使用する場所でもあることから、地域住民を交えた協議を行なながら進めていく必要がある。 施設整備や植栽の維持管理方法を徹底していく必要がある。
既存拠点の魅力を向上させて回遊ルートの質を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 地区内回遊の際には必ず通る場所に、散策の休憩場所を兼ねた公共空間を整備し、地域を回遊するための利便向上を図った。 回遊ルートの歴史や文化などを掲載した散策マップを作成、多くの人に知ってもらえるようオンライン地図情報も活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 	
回遊ルートの一部となるよう、旅館や駅から続く道路空間からも温泉情緒を感じ、高級感あふれる空間形成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 駅から続く主要道路の舗装をリニューアルして温泉旅館の景観や歩行者の安全に配慮した整備を行った。 温泉街の入り口に、双方向から視認できる品のある案内板を設置した。 駅からの散策路への植栽も含め、地区内各所に植栽を行い、地域の商店を活用しながら、年間を通して地域内で花が楽しめる空間づくりを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	(仮称)枝垂れ桃の里公園の維持管理、枝垂れ桃の里祭りの継続開催	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊ルートのさらなる魅力づくり、年間を通して花が見え楽しめるような整備を継続する。 ・地域住民が主体となり、維持・管理も含めたまちづくり活動を、行政がサポートする。 ・自然や歴史などの地域資源を生かしたまちづくり活動を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会による管理 ・行政による定期的管理、補修 ・行政による住民活動のサポート体制の構築 ・「湯めぐり花めぐり」、「散策マップ企画」の継続
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	湯の華小径などの回遊ルートの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内にある美しい庭園を有する高級温泉旅館、多様な地域の資源、四季を通して楽しめる植栽などを有機的に結び、来訪者が散策やすい仕掛けづくりを行う。 ・空き家や民家を利用し来訪者がゆったりとした時間を過ごすことができる休息施設を整備する。 ・観光のニーズに合わせた施設づくりを行い、地域内雇用の増加に繋げる。 ・地場産物を活かした名産品を開発し、来訪者の増加や地域の活性化に資する取組を行う。 ・アプリを活用するなど情報発信の強化に努める。 ・散策コースと公共交通との連携を強化する(MaaSの活用など)。 ・今後四季を通して楽しめるよう、回遊ルートの維持・管理を地域住民・行政と一体となって行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会や稻生沢地域まちづくり協議会によるまちづくり活動と、行政による活動のサポート ・空き家対策総合支援事業
	枝垂れ桃の地区全体への展開	<ul style="list-style-type: none"> ・枝垂れ桃の里公園のほか、地区内全体へ枝垂れ桃を植栽することにより、地域への愛着を高めるとともに、観光資源として活用する。 	・同上
	歴史的、文化的資産を活かした来訪者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・「湯めぐり花めぐり」「散策マップ企画」の継続的活動による周遊促進、地域の良さをPRして、今後も継続的な広報活動に努める。 ・地域の歴史的、文化的資源を活用し、まちの魅力をさらに高め、来訪者の増加を図る。 ・地域の歴史的、文化的資源の維持管理については行政が主体となって行う。 	・同上

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・観光地エリア景観計画に基づく事業として、景観に配慮した施設整備、歴史的文化的地域資源を活かした整備を進めてきたが、将来的に散策数の増加にもつながるよう努めていく。 ・景観への配慮は住民の生活空間の景観向上につながり、住んでよかったと思えるまちづくりにも繋がるため今後も継続して進める必要がある。 ・小学校、中学校、高校等の文教施設が集まる地域は、児童、生徒が安心・安全に通学できる環境づくりを継続して行う。 ・本事業を通して、稻生沢地域まちづくり協議会の活動はまちづくりへの住民参加のきっかけとなり定着してきた。今後は協議会が主体となって、まちの拠点づくりや地域の生活環境向上を促進するソフトやハード事業などを行政が活動をサポートして継続的に行うことが望まれる。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に問わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無
指標	目標		年度	年度	年度	年度	評価値	目標達成度		
指標1	散策数 吉田松陰寓寄処の年間来訪者の増加	人/年度	2,839	H25	3,000	R02	確定 ●	△	あり	—
							見込み	△	なし	●
指標2	散策数 主要旅館2軒における宿泊数の現状維持	人/年度	18,670	H26	18,670	R02	確定 ●	△	あり	—
							見込み	△	なし	●
指標3	まちづくり活動に参加したい人の増加「関心あり、機会があれば活動に参加したい」割合	%	32.7 (稻生沢地区住民割合)	H25	38.9 (全住民における割合)	R02	確定	△	あり	—
							見込み ●	△	なし	●

フォローアップ計画		
予定期	計測方法	その他特記事項
R05	吉田松陰寓寄処の年間来訪者数を集計する。	コロナ収束後
R05	主要旅館2軒の年間宿泊者数を集計する。	コロナ収束後
R05	稻生沢地域まちづくり協議会におけるイベント等の提案がなされた時期に合わせてまちづくり活動への参加希望者を集計する。	コロナ収束後

その他の数値指標1	生活環境の満足度	%	20.4	H25		確定 ●	20.9		
						見込み			
その他の数値指標2	稻生沢地域のまちづくり協議会への参加	%	0.0	H25		確定 ●	23.6		
						見込み			
その他の数値指標3	温泉旅館活用事業「湯めぐり花めぐり」イベント参加者の地区内周遊	%	0.0	H30		確定 ●	70.0		
						見込み			

—	—	—
—	—	—
—	—	—

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまくいかなかつた点	目標数値として掲げた散策数については、様々な外的要因の影響を受け、吉田松陰寓寄処の一時閉鎖、旅館の閉館などがあり、来訪者数の減少に影響した。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	枝垂れ桃の里公園の整備などにより、祭り開催時の来訪者は増加した。	地域内で行うイベント等については、地域住民をはじめ、市内外に周知することで、まちの活性化を生み出す。
	うまくいかなかつた点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・枝垂れ桃をはじめとする、多年草の植樹、維持管理等に地域住民が参加。 ・稻生沢地域まちづくり協議会が、市で企画した「湯めぐり花めぐり」を引き継いで実施主体となり、継続してくれている。	稻生沢地域まちづくり協議会のような住民参加型のまちづくりは事業を円滑化する上で重要である。
	うまくいかなかつた点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかつた点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかつた点	令和2年1月から現時点において、コロナウイルスの影響により、数値目標を達成することができなかった。	

添付様式6-1参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区的名称(当該地区的次期計画も含む)

2018(平成30)年度から2022(令和4)年度 【旧下田町歴史文化散策地区 都市再生整備計画事業】を実施中。2022(令和4)年度事後評価を行う予定。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	下田市役所ホームページに掲載	令和3年2月15日 ～令和3年3月16日	令和3年2月15日 ～令和3年3月16日	下田市建設課への持ち込み、インターネットによるメール、若しくは郵送による受付	下田市建設課
広報掲載・回覧・個別配布	令和3年2月1日号広報しもだに掲載	令和3年2月15日 ～令和3年3月16日	令和3年2月15日 ～令和3年3月16日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	・意見無
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織			
学識経験のある委員	下田市都市計画審議会会長 伊藤 光造	令和3年3月24日	下田市建設課	下田市都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	独自に設置			
その他の委員	下田市景観まちづくり審議会 会長 稲生沢地域まちづくり協議会 事務局 蓮台寺区長 下田市観光協会 事務局長							
審議事項※1		委員会の意見						
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	<ul style="list-style-type: none"> ・方法書に従って、事後評価が適正に行われたことが確認された。 						
	成果の評価	<p>■指標1: 散策数 吉田松陰寓寄處の年間来訪者の増加について、未達であるが、目標達成度の判定を「△」とした判定に評価委員会の理解を得た。 R2実績値見込み(3月のみ直近値採用): 1,014人</p> <p>■指標2: 散策数 主要旅館2軒における宿泊数の現状維持について、未達であるが、目標達成度の判定を「△」とした判定に評価委員会の理解を得た。 但し指標1、指標2の数値目標値に対する結果が推計値となっていることから、実績値を把握する必要があるという意見があった。 R2実績値見込み(3月のみ直近値採用): 13,763人</p> <p>■指標3: まちづくり活動に参加したい人の増加「関心あり、機会があれば活動に参加したい」割合について、目標達成度の判定を「△」とした判定に評価委員会の理解を得た。</p>						
	実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						
	効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						
	事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・原案公表は妥当であると確認された。 						
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・県道交差点の路面カラー舗装が劣化しており、景観的にも好ましくないという意見があった。 						
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価の手続きは妥当であると確認された。 						
	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動の認知度も高まっているため、今後はまちづくり活動に参加しやすいものを考え、まちづくり活動への参加人数を増やす工夫が必要であるという意見があった。 ・稲生沢まちづくり協議会のメンバーが高齢化するなか、後継者の育成や、継続的なまちづくり活動が大切であるなどの意見があった。 ・実行委員会の活動を通して、枝垂れ桜は地域に根付き、地域の宝となりつつあるため、今後は対外的なPR活動などを行うとともに、行政など地域活動をサポートする体制づくりを充実させる必要があるという意見があった。 						
今後のまちづくりについて審議	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・意向調査で行った「稲生沢地区の現状の満足度」に関しては、定期的に実施するのがよいという意見があった。 						
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。 						
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 						

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。